

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる「NGU 教養スタンダード科目」を開設しています。「NGU 教養スタンダード科目」は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

「キリスト教」に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

情報に関する科目

情報教育の充実が、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現上級」も学修することができます。

社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、「歴史・文化」、「社会」、「自然・人間・生命」、「地域」の4区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修

文部科学省は現在、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに関心を持って、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は Center of Community の略で、地域再生の核となる大学の意味です。

名古屋学院大学の取り組みの概要

本学の COC 事業はキャンパスの立地する名古屋市および瀬戸市を対象とし、両市が抱える地域の課題について、「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」のまちづくりを通じて解決をめざすものです。

「地域商業まちづくり」・・・商店街活性化などを通じて地域経済効果の増大をめざします。
「歴史観光まちづくり」・・・歴史の掘起しや地域資源の発掘により歴史観光を推進します。
「減災福祉まちづくり」・・・災害に強いひとづくり・まちづくりをめざします。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内での学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります。

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」	▶			
② 課題解決型授業（PBL）	▶			
③ 地域志向型科目（各学部専門科目）	▶			
④ 教育イベント「地域フォーラム」			▶	

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「**まちづくり提言コンペ**」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・歴史観光・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開設するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」で継続受講することも可能です。
- ③ 全学部で、地域を学修対象とした**地域志向型科目**を充実していきます。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。専門科目としての演習科目やゼミなどで学修・研究した成果を広く地域へ発信します。

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

COC+事業と2019年度のプログラム

「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を踏まえ、地域と大学の連携をより深く進め、さらに地域での就業につながるプログラムが COC+（プラス）事業です。

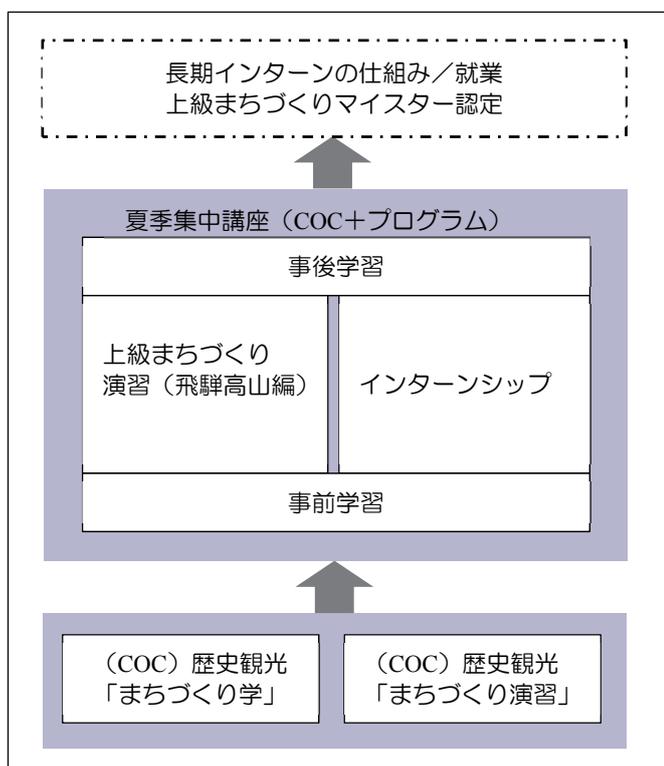
2019年度 COC+プログラム

COC+のプログラムでは、大学 COC 事業で培った知識や経験を前段として、地域とともに将来の地域づくりを担う人材（上級まちづくりマイスター）を育成します。

2019年度は、名古屋学院大学が COC 事業で地域づくりの題材とする「歴史観光」分野で開講します。古くから観光地域づくりで先進的な岐阜県高山市における観光地域づくり人材育成プログラムです。

COC+のプログラムは、COC 事業の「まちづくり学」「まちづくり演習」科目（歴史観光分野）の単位を修得した学生または履修している学生が受講できます。名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスの両方の学生が参加可能です。

高山市における COC+プログラム「上級まちづくり演習」「インターンシップ」の流れと特徴



《プログラムの特徴》

- 将来的に観光産業をめざすなら、日本有数の観光地で国内外からも注目の高い高山市で、観光産業にかかわる実務者とともに実践的な演習を受けられます。
- 将来的にサービス産業をめざす学生にとって、単なるアルバイト目線ではなく、サービス産業従事者の視点をもつチャンスです。観光地ならではの宿泊産業の体験をとおして、サービス業におけるサービスとは何か、ホスピタリティとは何かを考え、表現するスキルが身につきます。
- 高山市には観光産業をはじめ、多くの分野の企業があります。飛騨高山や下呂などの出身の学生にとっては、自分の地域をよりよく知り、魅力を発見する機会になります。

マイスター認定制度

初級まちづくりマイスター

COC 事業で取り組んでいる3つのまちづくり分野（地域商業・歴史観光・減災福祉）ごとに COC カリキュラムで開講している「まちづくり学」「まちづくり演習」科目の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

COC 事業で初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

国際文化学部 国際文化学科

教育目標（学則第3条の2より）

国際文化学科は、現代社会に生起するさまざまな問題についての確に対応し、地域文化の多様性を理解するとともに文化交流の担い手として活動し、文化のグローバル・多文化共生を背景とした持続可能な社会の形成に必要な思考力・判断力・行動力を身につけた人材の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

国際文化学科に所属する学生は、学部および学科のカリキュラムを履修、学修することとおして、以下の能力が獲得できる。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生には国際文化学部から学士（国際文化）の学位が授与される。

知識・技能

- 1) 日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身につけることができる。
- 2) 国際社会における文化的対立の構造を理解することができる。
- 3) 多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身につけることができる。

思考力・判断力・表現力

- 4) 共生可能な持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身につけることができる。
- 5) 多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。

主体性・多様性・協働性

- 6) 国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際交流活動に参画することができる。
- 7) 「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性を学ぶことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

国際文化学科はディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するために、次のような教育内容、教育方法、学修成果の評価の方針に基づき、カリキュラム編成と授業実施をおこなう。カリキュラムの体系的性、各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応関係についてはカリキュラムマップなどで明示する。

教育内容

- 1) カリキュラムは、成熟した市民としての基礎的素養を修得する「NGU 教養スタンダード科目」、国際文化学部の2学科に共通して必要な知識・技能を修得する「学部共通科目」、国際文化学科の専門性を深める「学科専門科目」から学ぶ。
- 2) 「学部共通科目」においては、実践的な語学力を修得するため、英語および第2外国語（ドイツ語、フランス語、スペイン

ン語、中国語から選択)を履修する。また、グローバル時代の国際文化の概念、その前提となる日本文化の特質を理解する。

- 3) 《学科専門科目》においては、英語の実践的な運用能力を高めるとともに、日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパをはじめ現代の文化圏について、文化・歴史・社会・政治・経済など多面的な視点から学ぶ。また、入学時の導入教育から卒業研究に至るまで、少人数による演習を4年間履修する。
- 4) 《国際協力関連科目》は、国際協力学科の開講科目の中から国際理解・国際交流を学ぶ上で必要な科目を配当する。

教育方法

- 1) 多人数講義においてもICTを活用した情報提供ツールを積極的に活用し、知的興味・関心を醸成する。
- 2) 国際社会で活躍する多様な経験者から実践的な指導を受ける機会を設ける。
- 3) 座学で学んだ国内外の文化を実践的に理解するため、フィールドワークや地域リサーチ活動を実施する。
- 4) それぞれの授業においてあらかじめ示された教育目標を達成させるとともに、個々の学生の学習進度に即して適切な課題や練習問題を与えることで、自学的学習を支援し、レポート課題や学習成果の評価を客観的かつ適切に実施する。
- 5) 講義科目においては、小テストや面接を通して受講生の学習状況や理解度の把握に努める。演習科目については、担当教員が学生相互の議論を誘導し、集団討議や成果発表をおこなう。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、原則として平常点および期末試験などによる総合評価(100点満点)によりおこなわれる。
- 2) 思考力・判断力・表現力・態度などについては、達成度指標を設けて段階的に評価する。
- 3) 4年間の学修成果の最終的なまとめとして、卒業論文(必修)の作成・発表を重視し、ディプロマ・ポリシーに適合するか否かについて評価する。

アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

求める学生像

国際文化学科では、国際的視野をもって自立した将来設計を描くことを希求する者、具体的には下記の要件を備えたものを入学者として受け入れの対象とする。

- 1) グローバル時代における価値の共有化の中で、地域固有の文化に目を向け、地域の言語・文化・社会・経済などに多様な視点で関心をもつ者。
- 2) 実践的ツールとしての外国語運用能力を高める意志の強固な者。
- 3) 現実社会から実践的に課題を掘り起こし、その解決のための方策を考え行動する者。
- 4) 具体的な将来目標として、国際的ビジネスパーソン、国際的視野をもって観光・流通・交通などの業をめざす者、海外で日本を紹介し、また日本語・日本文化の指導者として活躍することを希望している者、国際協力・国際支援に関わるような活動に積極的に参画しようとする者など。

入学時までに身につけるべき知識、能力など

- 1) 高等学校の教科に関する基礎的・基本的な知識・技能
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、学校内外の多様な学習や活動を経験することによる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

本学は、大学入学時まで培われた確かな基礎学力、各学部学科への適性、多様な学習や活動を通じて身につけた能力や意欲などを、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針とする。国際文化学科においてもこの原則に基づき、下記の多様な入学者選抜を実施する。

1) 学力試験

本学独自の学力試験または「大学入試センター試験」の成績に基づき、本学での学修に必要な基礎学力を有すると判断した者を選抜する。

2) 推薦試験

書類審査、面接、小論文などにより、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格など）の状況、各学科への適性や意欲などを評価する。

3) AO 試験

本学第1志望者を対象とし、書類審査（調査書など・事前課題）および講義・試験・ディスカッションなどにより、専攻学問分野の修得に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力などを評価する。

4) グローバル人材特別入学試験

本学入学を第1志望とし、すでに英語運用能力において一定の学力を有するものを対象として、書類審査（調査書など）および面接により意欲、適性などを評価する。

カリキュラムの概要

国際文化学科の科目について

(1) 学科基幹科目

《学科基幹科目》は「国際文化理解」「国際文化交流」の学修の根幹をなす重要な科目を集めています。必修科目の「比較文化・社会論1」で文化・社会のあり方を比較考察する他、選択科目として以下の科目を配置しています。

「異文化コミュニケーション論」「比較文化・社会論2」「多文化共生社会論」「情報文化論」「多文化教育論」「人間行動論」「比較認知科学」「比較行動学」

(2) グローバル文化科目

《グローバル文化科目》は、アメリカ、ヨーロッパをはじめ世界を構成する現代の文化圏について、地域的文化・宗教・生業などの多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解するとともに、文化の成立・変容・地域化などを学ぶことが可能となります。選択科目として以下の科目を配置しています。

「英米文学概論」「英米文学史」「欧米文化総論」「欧米地域文化論A」「欧米地域文化論B」「欧米地域文化論C」「日欧交流史」「環太平洋地域研究」「東西交渉史」「文化変容論」「マイノリティ論」「イスラム世界論」

(3) 日本アジア文化科目

《日本アジア文化科目》は、日本の歴史・文化・社会的特質・慣習・宗教などを多面的に理解するとともに、中国他アジア諸国の歴史と現状を学びます。選択科目として以下の科目を配置しています。

「日本の国宝・文化財」「日本の思想」「日本の民俗学」「日本社会論」「日本地域史論」「日本アジア交流史」「現代中国事情」「中国文化社会論」「現代アジア文化社会論」「南アジア文化社会論」「日中関係論」「中国社会経済論」「日本のポップカルチャーとアジア」

(4) 国際協力関連科目

国際協力学科開設科目のうち《国際協力関連科目》として選択科目5科目、および様々な資格や検定試験に挑戦するための「国際文化能力開発1～3」を配置しており、本学科の教育目標である国際文化理解・国際交流をさらに一歩進めた国際協力の視野を獲得することができます。

(5) 留学単位振替科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学や海外フィールドワークへの参加を推奨しています。本学が実施する長・中期留学に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。また短期留学や海外フィールドワークでの学修は、《留学単位振替科目》の「海外事情 1~4」などで認定されます。

カリキュラム上の特色

国際文化学部は、建学の精神である「敬神愛人」にもとづき、4年間の間に《NGU 教養スタンダード》に配当されている多彩な科目によって本学の礎であるキリスト教主義とその実践的課題を学ぶとともに、現代社会で生きるための知識と知恵、さらにはコミュニケーションの基礎を学修します。これは名古屋学院大学で学ぶ上での基礎的教養を形成する大切なプロセスです。

国際文化学部としての専門教育においては、優れた外国語運用能力とともに、多文化間の相互理解と交流、さらには文化的支援に主力を置いた国際協力を通して、グローバルに活躍する人材を育成することを学部のカリキュラム・ポリシーの中心に据えています。本学部では以下のような能力を養成することを目指しています。

- ① グローバル社会に生起するさまざまな問題についての確に対応できる多文化理解と持続的社會形成のための思考力・判断力・行動力を身につける。
- ② グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を養う。
- ③ グローバル社会に対応するために、日本文化の基礎を確実に身につけ、多文化理解における比較文化の視点を明確にもつ。
- ④ 多様な文化的世界において、自己の考え方を相手に正しく説明し、また、相手の意見を十分に理解するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。

これらの能力の養成のため、国際文化学部の教育課程を《NGU 教養スタンダード科目》《学部共通科目》《学科専門科目》から編成していますが、特に学部共通として多くの科目が提供されています。

《学部共通科目》の中の英語科目については、国際共通語としての英語のスキルを高めるため、1年次必修科目の「基礎英語 1,2」「英語表現 1,2」を配置し、さらに1・2年次に選択必修科目として科目ごとに異なるトピックを扱う「英語演習 A~L」を配置し、様々な場面を想定した英語の実用能力をつけることを目指しています。

また、第2外国語としてドイツ語、フランス語、スペイン語および中国語の選択必修科目をそれぞれ8科目ずつ1,2年次に配置している他、各自の興味や学習段階に合わせて選択できる選択科目を1~3年次にかけて配置し、文化的な知識をつけるのと同時に語学的な実践力を伸ばすことができるようにしています。

さらにアジア諸語の入門科目、現代社会で必須の「コンピュータ技法」に関する科目が置かれています。

他に国際文化・国際社会を理解するための基本的な学修に則した科目として、グローバル時代の国際文化の概念とあり方を考察する「国際文化論」、および国際文化を学ぶ前提となる日本文化の特質を理解する「日本文化論」を必修として、日本の歴史と現状を見据えた国際人となることを期待しています。また、選択科目として、本学の建学の精神に連なる「キリスト教文化論 1・2」のほか、「グローバル社会文化論」「比較宗教論」などを開講することにより、国際的な理解・交流・協力・支援のマインドを身につけ、《学科専門科目》の学修を効果的なものとするようにカリキュラム設計がなされています。

このような学部カリキュラム全体の上に、さらに国際文化学科では、独自の特色を加味しています。

国際文化学科の特色

国際文化学科の《学科専門科目》は《学科基幹科目》《グローバル文化科目》《日本アジア文化科目》《国際協力関連科目》《留学単位振替科目》および《演習科目》から構成され、以下の分野を含んでいます。

- ① 豊富な地域文化理解科目により日本および国際文化の多様な実情を理解する分野
- ② 多文化理解、国際社会における文化的対立の構造と解決に必要な学修分野
- ③ ヨーロッパを中心とする文化圏とアジア文化圏、さらにはそれらの歴史的諸関係で形成された文化圏など、国・地域という概念を超えた世界の認識方法についての理解とそれにもとづく国際的文化活動への理解と参画に必要な学修分野

その他

国際文化を学ぶ上で、海外における生活体験・行動経験あるいは国内外でのフィールドワークはとても大切なものです。多くの学生が経験する機会を得られるように、留学、フィールドワークなどを卒業要件単位の中で履修できるように配慮されています。

国際文化学科では「フィールドワーク」を重要な実践科目として位置づけています。これは選択科目ですが、在学期間中の早期に参加・体験することを推奨しています。

他学科科目の履修

国際文化学部では、他学科科目の履修が認められており、《自由選択科目（フリーゾーン）》として卒業要件に含まれます。履修には本人の申し出が必要となります。履修登録期間または履修登録変更期間に教務課窓口で申し込んでください。

資格単位認定

学生が主体的に学ぶ意欲を評価することを目的として、「国際文化能力開発 1～3」を配置しています。また、より高い目標へ挑戦する学生をサポートすることを目的として、特定の授業科目の単位認定制度を設けています。学部が指定する資格を取得し、定められた基準をクリアした場合に、本人の申請にもとづき、所定の単位が認定（R 評価）されます。なお、資格センターではみなさんの便宜をはかるために、各種資格講座を学内で開設しています。

1. 対象となる資格など

表 1（「国際文化能力開発 1～3」を単位認定）

認定する資格・検定・研修名	認定基準	認定する資格・検定・研修名	認定基準
旅行業務取扱管理者試験 （「国内」または「総合」）	資格取得	国際連合公用語英語検定	B 級以上
通関士試験	資格取得	全国通訳案内士	資格取得
日本語検定	2 級以上	インドネシア語技能検定	C 級以上
貿易実務検定	C 級以上	国際知識検定（インドネシア・タイ・ベトナム・韓国・ロシア・台湾検定のいずれかに限る）	2 級以上
世界遺産検定	2 級以上	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所での言語研修	言語研修の修了

表 2 (特定の授業科目を単位認定)

項番	認定する資格・検定名	認定基準	認定される授業科目
1	実用英語技能検定 (英検)	2 級以上	英語演習 A・B・C・D 基礎英語 1・2、英語表現 1・2
	TOEIC Listening&Reading (IP を含む)	480 点以上	
	TOEFL ITP	430 点以上	
	TOEFL iBT	40 点以上	
2	ドイツ語技能検定試験 (独検)	5 級以上	入門ドイツ語 1・2、基礎ドイツ語 1・2 応用ドイツ語 1・2、発展ドイツ語 1・2
	ドイツ語検定試験 (ゲーテ・インスティ トートの検定試験)	A1 以上	
	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試 験 (ösd (エーエステー))	A1 以上	
3	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5 級以上	入門フランス語 1・2、基礎フランス語 1・2 応用フランス語 1・2、発展フランス語 1・2
	フランス語能力認定試験 (TEF)	A1 以上	
4	スペイン語技能検定 (西検)	6 級以上	入門スペイン語 1・2、基礎スペイン語 1・2 応用スペイン語 1・2、発展スペイン語 1・2
	DELE (外国語としてのスペイン語検定 試験)	A1 以上	
5	HSK (漢語水平考試)	1 級以上	入門中国語 1・2、基礎中国語 1・2
		2 級以上	応用中国語 1・2、発展中国語 1・2
	中国語検定試験 (中検)	準 4 級以上	入門中国語 1・2、基礎中国語 1・2 応用中国語 1・2、発展中国語 1・2

2. 申請期間

春学期は 6 月、秋学期は 12 月の開講日に申請。申請月以前 3 年以内に取得したものに限りま

す。表 1 について、入学前に取得したものは申請を許可しません。

表 2 について、入学前に取得したものは入学年度に限り受けつけます。

3. 申請期間の特例

最終学年の学生 (卒業予定者) に限り、「2. 申請期間」以外に教務課より CCS にて周知される特定の期間において追加申請を受けつけます。

4. 認定

学部において承認された場合、単位を認定します。

申請時の学年が認定科目の配当年次未満の場合、配当年次以上の学年に進級した時点で単位が認定されます。

5. 成績標語など

単位認定の成績標語は「R」(認定)とします。認定された科目は GPA 算出の対象外となります。

6. 補足事項

認定単位数は、履修制限単位数には含みません。

表 1 について、各種資格の申請は各 1 回とします。

表 2 について、1 回の申請につき、認定される科目は 1 つです。

表 2 項番 1 について、各種資格 (「英検」、「TOEIC」、「TOEFL」の 3 種類で区別) の申請は各 1 回とします。

表 2 項番 2~5 について、申請は 2 回までとします。選択言語に限りま

す。表 2 項番 5 について、HSK (漢語水平考試) の結果が合否でなくスコア表示の場合は、180 点以上の得点とします。

7. 他機関との単位互換

- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所での言語研修

本学は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所と単位交換の協定を締結しており、同研究所が開催する言語研

修を修了した場合は、「国際文化能力開発」に振替が可能です。

※過去に開催された言語研修や参加申し込みなど、詳細は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ホームページ (<http://www.aa.tufs.ac.jp/>) で確認できます。

演習科目

演習科目とその履修について

学部の《演習科目》の内、必修科目は、2年次の「国際文化基礎演習1・2」および3・4年次の「演習」になります。「国際文化基礎演習1・2」では広く国際理解・国際交流に関する自主的学習のための基礎を形作ります。「演習」では、担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。「演習」の選択にあたっては、学生のみなさんが希望する教員・専門的分野を選択し、教員の選考を経てゼミの一員となることができます。

また、選択科目である「国際文化理解実践論1・2」においては、国際場面における実践的学習の方法と実践後のプレゼンテーションを学び、留学などの海外における体験に備える面からも役立つように考えられています。

「演習」の履修

「演習」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。なお、その履修にあたっては、次の2つの条件をクリアしていなければなりません。

- ① 「基礎セミナー」の単位を修得していること
- ② 2年次の終了時点で、40単位以上を修得していること

履修モデル

国際文化学科の履修モデルの基本的な考え方は次のとおりです。

国際文化学科の養成する人材像に対応して、《グローバル文化科目》《日本アジア文化科目》に対応した履修モデルを提示しますが、これはあくまでモデルですから、学生のみなさんは、それぞれの興味・関心を中心に置きながら、系統的な学修を進めてください。

- ① 広くグローバル文化を学修し、国際的視野に立つ企業や機関などで活躍する学生のために望ましいモデル（グローバル文化モデル）
 - a) 想定される進路
一般企業、海外展開する国際企業、観光・航空・物流など国際コミュニケーション力を必要とする企業、行政機関など
 - b) 履修モデルの考え方
グローバルな視野に立って多文化社会を理解し国際的な場で活躍するため、優れた外国語運用能力を備え、文化・歴史・社会・政治・経済などの広範な知識をもとに複雑な国際関係を理解するように構築されています。
 - c) 履修科目の概要
この履修モデルでは、《グローバル文化科目》を中心に履修を進めます。世界的な視野を持つために欧米関係の科目に加えてイスラム圏に関する科目などを履修し、幅広い地域に関する知識をつけます。

- ② 激動し、国際力を強めるアジア地域を中心とした国際社会で活躍する学生のために望ましいモデル（日本アジア文化モデル）
- a) 想定される進路
一般企業、アジアを中心に展開する国際企業、観光・航空・流通などの企業、行政機関など
- b) 履修モデルの考え方
広く我が国内外における多文化社会、多文化共生・協働を理解し、日本とアジアの関係を中心に学習を進め、アジアを中心とした国際社会への参画を志す人材のための教育プログラムを提示しています。
- c) 履修科目の概要
この履修モデルでは、《日本アジア文化科目》を中心に履修を進めていきます。現在の青年層が学ぶ機会が少ないと思われる「日本の思想」「日本の民俗学」「日本社会論」などを通して、日本の歴史・文化・社会的特質・慣習・宗教などを多面的に学修することを推奨します。併せて、「現代中国事情」「中国社会経済論」などで、中国他アジア諸国の歴史と現状を学びます。これにより、アジア世界を客観的に見る目を養うとともに、日本とアジア地域との深い関係について、歴史を踏まえた上で現実の政治経済を理解することができるようになります。

卒業要件

卒業要件単位の修得

国際文化学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教		26単位以上 (必修10単位を 含む)
	自己理解と自己開発		
	情報		
	言語とコミュニケーション		
	歴史・文化の理解		
	社会の理解		
	自然・人間・生命の理解		
学部共通科目 ※1			42単位以上
学科専門科目	学科基幹科目	12単位以上	46単位以上
	グローバル文化科目 日本アジア文化科目 国際協力関連科目 留学単位振替科目	22単位以上	
	演習科目	12単位以上	
	自由選択科目(フリーゾーン) ※2		
合計			124単位以上

[注記]※1 必修8単位及び選択必修14単位を含む

※2 科目区分を問わず、自由に選択できる。

国際文化学科 NGU教養スタンダード

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
キリスト教				
キリスト教概説1	2		1	AC1101
キリスト教概説2	2		1	AC1102
聖書学		2	2	AC2301
キリスト教倫理		2	2	AC2302
キリスト教史		2	1	AC1301
自己理解と自己開発				
基礎セミナー	2		1	AU1101
発展セミナー		2	1	AU1301
キャリアデザイン1a		2	1	AU1302
キャリアデザイン1b		2	1	AU1303
キャリアデザイン2a		2	2	AU2301
キャリアデザイン2b		2	2	AU2302
ボランティア学		2	1	AU1304
ボランティア演習		2	1	AU1305
インターンシップ1		2	1	AU1306
インターンシップ2		2	1	AU1307
情報				
情報処理基礎	2		1	AI1101
言語とコミュニケーション				
日本語表現	2		1	AV1101
日本語表現上級		2	1	AV1301
歴史・文化の理解				
【教養】日本史		2	1	AW1301
【教養】世界史		2	1	AW1302
【教養】日本文学		2	1	AW1303
【教養】外国文化論		2	1	AW1304
【教養】文化人類学		2	1	AW1305
【教養】陶芸論		2	1	AW1306
【教養】陶芸演習		2	1	AW1307
社会の理解				
【教養】政治学		2	1	AO1301
【教養】国際政治学		2	1	AO1302
【教養】国際関係論		2	1	AO1303
【教養】平和学		2	1	AO1304
【教養】法学		2	1	AO1305
【教養】日本国憲法		2	1	AO1306
【教養】経済学		2	1	AO1307
【教養】経営学		2	1	AO1308
【教養】統計学		2	1	AO1309
【教養】社会学		2	1	AO1310
【教養】教育学		2	1	AO1311
自然・人間・生命の理解				
【教養】哲学		2	1	AN1301
【教養】心理学		2	1	AN1302
【教養】数学		2	1	AN1303
【教養】物理学		2	1	AN1304
【教養】化学		2	1	AN1305
【教養】地学		2	1	AN1306
【教養】生物学		2	1	AN1307
【教養】環境学		2	1	AN1308
【教養】情報処理論		2	2	AN2301
【教養】スポーツ健康科学		2	1	AN1309
【教養】スポーツ初級a		1	1	AN1310
【教養】スポーツ初級b		1	1	AN1311
【教養】スポーツ中級a		1	2	AN2302
【教養】スポーツ中級b		1	2	AN2303
地域の理解				
まちづくり学		2	1	AR1301
まちづくり演習		2	1	AR1302
上級まちづくり演習		2	2	AR2301

国際文化学科 専門科目

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
基礎英語1	1		1	WB1101
基礎英語2	1		1	WB1102
英語表現1	1		1	WB1103
英語表現2	1		1	WB1104
英語演習A (英語で学ぶ日本の文化)		1	1	WB1201
英語演習B (英語で学ぶ世界の文化)		1	1	WB1202
英語演習C (英語で学ぶ異文化理解)		1	1	WB1203
英語演習D (英語で学ぶ時事問題)		1	1	WB1204
英語演習E (英語で学ぶSDGs)		1	2	WB2201
英語演習F (英語で学ぶ環境・エネルギー問題)		1	2	WB2202
英語演習G (英語で学ぶ健康と食糧)		1	2	WB2203
英語演習H (英語で学ぶ国際連合)		1	2	WB2204
英語演習I (英語で学ぶ差別問題)		1	2	WB2205
英語演習J (英語で学ぶ平和)		1	2	WB2206
英語演習K (英語で学ぶ世界遺産)		1	2	WB2207
英語演習L (英語で学ぶ教育問題)		1	2	WB2208
入門ドイツ語1		1	1	WB1205
入門ドイツ語2		1	1	WB1206
基礎ドイツ語1		1	1	WB1207
基礎ドイツ語2		1	1	WB1208
発展ドイツ語1		1	2	WB2209
発展ドイツ語2		1	2	WB2210
応用ドイツ語1		1	2	WB2211
応用ドイツ語2		1	2	WB2212
ドイツ語で学ぶドイツ文化		2	3	WB3301
ドイツ語で学ぶドイツ事情		2	3	WB3302
入門フランス語1		1	1	WB1209
入門フランス語2		1	1	WB1210
基礎フランス語1		1	1	WB1211
基礎フランス語2		1	1	WB1212
発展フランス語1		1	2	WB2213
発展フランス語2		1	2	WB2214
応用フランス語1		1	2	WB2215
応用フランス語2		1	2	WB2216
フランス語で学ぶフランス文化		2	3	WB3303
フランス語で学ぶフランス事情		2	3	WB3304
入門スペイン語1		1	1	WB1213
入門スペイン語2		1	1	WB1214
基礎スペイン語1		1	1	WB1215
基礎スペイン語2		1	1	WB1216
発展スペイン語1		1	2	WB2217
発展スペイン語2		1	2	WB2218
応用スペイン語1		1	2	WB2219
応用スペイン語2		1	2	WB2220
スペイン語で学ぶスペイン文化		2	3	WB3305
スペイン語で学ぶスペイン事情		2	3	WB3306
入門中国語1		1	1	WB1217
入門中国語2		1	1	WB1218
基礎中国語1		1	1	WB1219
基礎中国語2		1	1	WB1220
発展中国語1		1	2	WB2221
発展中国語2		1	2	WB2222
応用中国語1		1	2	WB2223
応用中国語2		1	2	WB2224
コミュニケーション中国語1		2	1	WB1301
コミュニケーション中国語2		2	1	WB1302
映画で見る中国語		2	2	WB2301
生活中国語		2	2	WB2302
日常中国語		2	2	WB2303
中国語の検定にチャレンジ		2	3	WB3307
おもてなし中国語		2	3	WB3308
実践中国語		2	3	WB3309

学部共通科目

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
韓国語1		2	1	WB1303
韓国語2		2	1	WB1304
フィリピン語と日常世界1		2	1	WB1305
フィリピン語と日常世界2		2	2	WB2304
基礎インドネシア語		2	1	WB1306
検定インドネシア語		2	2	WB2305
ことばと音声		2	2	WB2306
コンピュータ技法1		2	2	WB2307
コンピュータ技法2		2	2	WB2308
TOEIC英語基礎1		1	1	WB1307
TOEIC英語基礎2		1	1	WB1308
TOEIC英語実践1		1	2	WB2309
TOEIC英語実践2		1	2	WB2310
日本語教授法1		2	2	WB2311
日本語教授法2		2	2	WB2312
国際文化論	2		1	WB1105
キリスト教文化論1		2	2	WB2313
キリスト教文化論2		2	2	WB2314
宗教学人類学		2	1	WB1309
グローバル社会文化論		2	1	WB1310
日本対外関係史		2	1	WB1311
日本文化論	2		1	WB1106
比較宗教論		2	2	WB2315
宗教と平和		2	2	WB2316
国際環境論		2	2	WB2317
学科学科基幹科目				
異文化コミュニケーション論		2	2	WB2318
比較文化・社会論1	2		2	WB2101
比較文化・社会論2		2	2	WB2319
多文化共生社会論		2	2	WB2320
情報文化論		2	2	WB2321
多文化教育論		2	2	WB2322
人間行動論		2	2	WB2323
比較認知科学		2	2	WB2324
比較行動学		2	2	WB2325
グローバル文化科目				
英米文学概論		2	2	WB2326
英米文学史		2	2	WB2327
欧米文化総論		2	2	WB2328
欧米地域文化論A		2	1	WB1312
欧米地域文化論B		2	1	WB1313
欧米地域文化論C		2	1	WB1314
日欧交流史		2	3	WB3310
環太平洋地域研究		2	2	WB2329
東西交渉史		2	2	WB2330
文化変容論		2	2	WB2331
ミノリティ論		2	2	WB2332
イスラム世界論		2	2	WB2333
日本アジア文化科目				
日本の国宝・文化財		2	2	WB2334
日本の思想		2	2	WB2335
日本の民俗学		2	2	WB2336
日本社会論		2	2	WB2337
日本地域史論		2	3	WB3311
日本アジア交流史		2	2	WB2338
現代中国事情		2	2	WB2339
中国文化社会論		2	2	WB2340
現代アジア文化社会論		2	2	WB2341
南アジア文化社会論		2	2	WB2342
日中関係論		2	2	WB2343
中国社会経済論		2	2	WB2344
日本のポップカルチャーとアジア		2	3	WB3312

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
国際協力関連科目				
文化交流論		2	2	WB2345
ジェンダー論		2	2	WB2346
国際人権論		2	2	WB2347
国際平和学		2	2	WB2348
世界遺産論		2	2	WB2349
国際文化能力開発1		2	1	WB1315
国際文化能力開発2		2	1	WB1316
国際文化能力開発3		2	1	WB1317
留学単位振替科目				
海外事情1		2	1	WB1318
海外事情2		2	1	WB1319
海外事情3		2	1	WB1320
海外事情4		2	1	WB1321
演習科目				
フィールドワーク		1	1	WB1322
国際文化理解実践論1		2	1	WB1323
国際文化理解実践論2		2	1	WB1324
国際文化基礎演習1	2		2	WB2102
国際文化基礎演習2	2		2	WB2103
演習	8		3・4	WB3101・WB4101

選択必修科目

①ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・基礎・発展・応用の1と2を修得しなければなりません。

入門ドイツ語1・2	入門スペイン語1・2
基礎ドイツ語1・2	基礎スペイン語1・2
発展ドイツ語1・2	発展スペイン語1・2
応用ドイツ語1・2	応用スペイン語1・2
入門フランス語1・2	入門中国語1・2
基礎フランス語1・2	基礎中国語1・2
発展フランス語1・2	発展中国語1・2
応用フランス語1・2	応用中国語1・2

②英語演習AからLの中から6単位を修得しなければなりません。

英語演習A（英語で学ぶ日本の文化）
英語演習B（英語で学ぶ世界の文化）
英語演習C（英語で学ぶ異文化理解）
英語演習D（英語で学ぶ時事問題）
英語演習E（英語で学ぶSDGs）
英語演習F（英語で学ぶ環境・エネルギー問題）
英語演習G（英語で学ぶ健康と食糧）
英語演習H（英語で学ぶ国際連合）
英語演習I（英語で学ぶ差別問題）
英語演習J（英語で学ぶ平和）
英語演習K（英語で学ぶ世界遺産）
英語演習L（英語で学ぶ教育問題）

国際文化学部 国際協力学科

教育目標（学則第3条の2より）

国際協力学科は、グローバルに展開する地域固有の文化・社会・経済・宗教などの現状を理解し、個別地域社会や多文化社会との積極的な交流・協力・支援を通して、地球レベルでの持続的文化発展に貢献する豊かな教養と人間性を身につけた人材の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

国際協力学科に所属する学生は、学部および学科のカリキュラムを履修、学修することをおして、以下の能力が獲得できる。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生には国際文化学部から学士（国際文化）の学位が授与される。

知識・技能

- 1) 国際協力を学習する前提として、日本および世界の各地域の文化・歴史・社会・政治・経済などを学び、グローバル社会における多文化理解を身につけることができる。
- 2) 国際社会、とりわけ発展途上国における政治的・社会的・文化的対立の構造を理解し、その解決のための行動のあり方を考察し、また実践することができる。
- 3) 多文化共生社会において求められる実践的な外国語運用能力とコミュニケーション能力を身につけることができる。

思考力・判断力・表現力

- 4) 共生可能な持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力を身につけることができる。
- 5) 多文化共生社会における豊かな許容性を理解し、共働の精神をもってその実現へ向けての考えを整理し、他者に対して説明することができる。

主体性・多様性・協働性

- 6) 国際社会の一員として、国際理解学習を進め、国際協力・支援活動に参画することができる。
- 7) 「敬神愛人」の精神が国際社会・多文化共生社会の中で重要な実践課題であることを自覚し、地域との協働や他者理解の必要性とそのための実践力を学ぶことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

国際協力学科はディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するために、次のような教育内容、教育方法、教育評価の方針に基づき、カリキュラム編成と授業実施をおこなう。カリキュラムの体系性、各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応関係についてはカリキュラムマップなどで明示する。

教育内容

- 1) カリキュラムは、成熟した市民としての基礎的素養を修得する《NGU 教養スタンダード科目》、国際文化学部の2学科に共通して必要な知識・技能を修得する《学部共通科目》、国際協力学科の専門性を深める《学科専門科目》から学ぶ。

- 2) 《学部共通科目》においては、実践的な語学力を修得するため、英語および第2外国語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語から選択）を履修する。また、グローバル時代の国際文化の概念、その前提となる日本文化の特質を理解する。
- 3) 《学科専門科目》においては、英語の実践的な運用能力を高めるとともに、日本および現代の世界に展開する多くの文化圏について、文化・歴史・社会・政治・経済など多面的な視点から学び、共生を前提とした国際協力・国際支援活動の現状についての知識を獲得する。また、入学時の導入教育から卒業研究に至るまで、少人数による演習を4年間履修する。
- 4) 《国際文化関連科目》として、国際文化学科の開講科目の中から国際理解・国際交流を学ぶ上で必要な科目を配当する。

教育方法

- 1) 多人数講義においてもICTを活用した情報提供ツールを積極的に活用し、知的興味・関心を醸成する。
- 2) 国際社会で活躍する多様な経験者から実践的な指導を受ける機会を、授業や学科行事の中で多様に展開する。
- 3) 座学で学んだ国際協力・国際支援のあり方を実践的に理解するため、スタディーツアーや、地域リサーチ活動を実施する。
- 4) それぞれの授業においてあらかじめ示された教育目標を達成させるとともに、個々の学生の学習進度に即して適切な課題や練習問題を与えることで、自学的学習を支援し、レポート課題や学習成果の評価を客観的かつ適切に実施する。
- 5) 講義科目においては、小テストや面接を通して受講生の学習状況や理解度の把握に努める。演習科目については、担当教員が学生相互の議論を誘導し、集団討議や成果発表をおこなう。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、原則として平常点および期末試験などによる総合評価（100点満点）によりおこなわれる。
- 2) 思考力・判断力・表現力・態度などについては、達成度指標を設けて段階的に評価する。
- 3) 4年間の学修成果の最終的なまとめとして、卒業論文（必修）の作成・発表を重視し、ディプロマ・ポリシーに適合するか否かについて評価する。

アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

求める学生像

国際協力学科では、国際的視野をもって自立した将来設計を描くことを希求する者や国際協力実践現場で貢献することを目標とする者、具体的には下記の要件を備えたものを入学者として受け入れの対象とする。

- 1) グローバル時代における価値の共有化の中で、地域固有の文化に目を向け、地域の言語・文化・社会・経済などに多様な視点で関心をもつ者。
- 2) 実践的ツールとしての外国語運用能力を高める意志の強固な者。
- 3) 現実社会から実践的に課題を掘り起こし、その解決のための方策を考え行動する者。
- 4) 具体的な将来目標として、国際機関や国際民間組織等で働くことを目指す者、国際協力・国際支援に関わるような活動に積極的に参画しようとする者、国際的ビジネスパーソン、国際的視野をもって観光・流通・交通などの業をめざす者、海外で日本を紹介し、また日本語・日本文化の指導者として活躍することを希望している者など。

入学時までに身につけるべき知識、能力など

- 1) 高等学校の教科に関する基礎的・基本的な知識・技能
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、学校内外の多様な学習や活動を経験することによる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

本学は、大学入学時まで培われた確かな基礎学力、各学部学科への適性、多様な学習や活動を通じて身につけた能力や意欲などを、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針としている。国際協力学科においてもこの原則に基づき、下記の多様な入学者選抜を実施する。

1) 学力試験

本学独自の学力試験または「大学入試センター試験」の成績に基づき、本学での学修に必要な基礎学力を有すると判断した者を選抜する。

2) 推薦試験

書類審査、面接、小論文などにより、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格など）の状況、各学科への適性や意欲などを評価する。

3) AO 試験

本学第1志望者を対象とし、書類審査（調査書など・事前課題）および講義・試験・ディスカッションなどにより、専攻学問分野の修得に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力などを評価する。

4) グローバル人材特別入学試験

本学入学を第1志望とし、すでに英語運用能力において一定の学力を有するものを対象として、書類審査（調査書など）および面接により意欲、適性などを評価する。

カリキュラムの概要

国際協力学科の科目について

(1) 学科基幹科目

《学科基幹科目》は「国際文化協力」「国際文化支援」の学修の根幹をなす重要な科目を集めています。必修科目の「国際関係論」および「国際協力論」から多様に展開する多文化・異文化学習と相俟って、国際文化協力・国際文化支援を推進させるための学習体系となっています。このほか、選択科目として以下の科目を配置しています。

「国際文化支援論」「開発社会経済論」「文化交流論」「国際社会学」「マイノリティ論」「ジェンダー論」

(2) 国際文化協力科目

《学科基幹科目》と並行して《国際文化協力科目》および《国際文化支援科目》が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援体系の中から各自の専門的分野を選択することになります。

《国際文化協力科目》は、国際関係のあり方を深く学ぶとともに、世界の中で日本が置かれた状況、とりわけ開発途上国と日本との関係を多様に学びます。選択科目として以下の科目を配置しています。

「国際移民論」「文化変容論」「日欧交流史」「日本アジア交流史」「日中関係論」「アジア政治経済論」「日本社会論」「環太平洋地域研究」「アジア地域研究1・2」「国際機構論」「国際平和学」

(3) 国際文化支援科目

《学科基幹科目》と並行して《国際文化協力科目》および《国際文化支援科目》が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援体系の中から各自の専門的分野を選択することになります。

《国際文化支援科目》の科目区分では、特に開発途上国の支援を念頭に据え、開発途上地域の実情を理解し、支援活動を考察することで、現実的な途上国支援のあり方を学びます。選択科目として以下の科目を配置しています。

「多文化共生社会論」「異文化コミュニケーション論」「世界遺産論」「地域発展論」「多文化教育論」「国際福祉論」「NPO・NGO論」「国際人権論」

(4) 国際文化関連科目

国際文化学科開設科目を中心に《国際文化関連科目》として必修の「比較文化・社会論1」他選択科目7科目、およ

び様々な資格や検定試験に挑戦するための「国際文化能力開発 1～3」を配置しており、本学科の教育目標である国際文化協力・国際文化支援を支えるべき広範な国際文化の視野を習得することができます。

(5) 留学単位振替科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学やスタディツアーへの参加を推奨しています。本学が実施する長・中期留学に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。また短期留学やスタディツアーでの学修は、《留学単位振替科目》の「海外事情 1～4」などで認定されます。

カリキュラム上の特色

国際文化学部は、建学の精神である「敬神愛人」にもとづき、4年間の間に《NGU 教養スタンダード科目》に配当されている多彩な科目によって本学の礎であるキリスト教主義とその実践的課題を学ぶとともに、現代社会で生きるために知識と知恵、さらにはコミュニケーションの基礎を学修します。これは名古屋学院大学で学ぶ上での基礎的教養を形成する大切なプロセスです。

国際文化学部としての専門教育においては、優れた外国語運用能力とともに、多文化間の相互理解と交流、さらには文化的支援に主力を置いた国際協力を通して、グローバルに活躍する人材を育成することを学部のカリキュラム・ポリシーの中心に据えています。本学部では以下のような能力を養成することを目指しています。

- ① グローバル社会に生起するさまざまな問題についての的確に対応できる多文化理解と持続的社会的形成のための思考力・判断力・行動力を身につける。
- ② グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を養う。
- ③ グローバル社会に対応するために、日本文化の基礎を確実に身につけ、多文化理解における比較文化の視点を明確にもつ。
- ④ 多様な文化的世界において、自己の考え方を相手に正しく説明し、また、相手の意見を十分に理解するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。

これらの能力の養成のため、国際文化学部の教育課程を《NGU 教養スタンダード科目》《学部共通科目》《学科専門科目》から編成していますが、特に学部共通として多くの科目が提供されています。

《学部共通科目》の中の英語科目については、国際共通語としての英語のスキルを高めるため、1年次必修科目の「基礎英語 1,2」「英語表現 1,2」を配置し、さらに1・2年次に選択必修科目として科目ごとに異なるトピックを扱う「英語演習 A～L」を配置し、様々な場面を想定した英語の実用能力をつけることを目指しています。

また、第2外国語としてドイツ語、フランス語、スペイン語および中国語の選択必修科目をそれぞれ8科目ずつ1,2年次に配置している他、各自の興味や学習段階に合わせて選択できる選択科目を1～3年次にかけて配置し、文化的な知識をつけるのと同時に語学的な実践力を伸ばすことができるようにしています。

さらにアジア諸語の入門科目、現代社会で必須の「コンピュータ技法」に関する科目が置かれています。

他に国際文化・国際社会を理解するための基本的な学修に則した科目として、グローバル時代の国際文化の概念とあり方を考察する「国際文化論」、および国際文化を学ぶ前提となる日本文化の特質を理解する「日本文化論」を必修として、日本の歴史と現状を見据えた国際人となることを期待しています。また、選択科目として、本学の建学の精神に連なる「キリスト教文化論 1・2」のほか、「グローバル社会文化論」「比較宗教論」などを開講することにより、国際的な理解・交流・協力・支援のマインドを身につけ、《学科専門科目》の学修を効果的なものとするようにカリキュラム設計がなされ

ています。

このような学部カリキュラム全体の上に、さらに国際協力量科では、独自の特色を加味しています。

国際協力量科の特色

国際協力量科の《学科専門科目》は《学科基幹科目》《国際文化協力科目》《国際文化支援科目》《国際文化関連科目》《留学単位振替科目》《演習科目》から構成されています。国際協力量科では、《学科専門科目》において、以下で示すようにとりわけ「国際文化協力」「国際文化支援」の学修を目標としています。

- ① 文化交流を基礎にした国際協力のあり方を理解するとともに、国際的な場における協力とは何かを実践的に学修するための分野
- ② 国際社会における文化支援の実態を学修し、日本の果たすべき役割を考究する能力を身につけさせるための学修分野
- ③ 特に開発途上国を中心に現地学習をもとに課題を発見し、問題解決に必要な自己の行動のあり方を学修させるための実践的分野

その他

国際協力を学ぶ上で、海外における生活体験・行動経験あるいは国内外でのフィールドワークはとても大切なものです。時間や経済的に多くの制約条件がありますが、多くの学生が経験を積む機会を得られるように、留学、スタディツアーなどを卒業要件単位の中で履修できるように配慮されています。

国際協力量科では「スタディツアー」を重要な実践科目として位置づけています。これは選択科目ですが、在学期間中の早い時期に参加・体験することを推奨しています。国際協力量科が実施する「スタディツアー」に参加するには「国際協力量科実践論」(春学期開講)を必ず履修しなければなりません。

他学科科目の履修

国際文化学部では、他学科科目の履修が認められており、《自由選択科目(フリーゾーン)》として卒業要件に含まれます。履修には本人の申し出が必要となります。履修登録期間または履修登録変更期間に教務課窓口で申し込んでください。

資格単位認定

学生が主体的に学ぶ意欲を評価することを目的として、「国際文化能力開発 1~3」を配置しています。また、より高い目標へ挑戦する学生をサポートすることを目的として、特定の授業科目の単位認定制度を設けています。学部が指定する資格を取得し、定められた基準をクリアした場合に、本人の申請にもとづき、所定の単位が認定(R評価)されます。なお、資格センターではみなさんの便宜をはかるために、各種資格講座を学内で開設しています。

1. 対象となる資格など

表1(「国際文化能力開発 1~3」を単位認定)

認定する資格・検定・研修名	認定基準	認定する資格・検定・研修名	認定基準
旅行業務取扱管理者試験 (「国内」または「総合」)	資格取得	国際連合公用語英語検定	B級以上
通関士試験	資格取得	全国通訳案内士	資格取得
日本語検定	2級以上	インドネシア語技能検定	C級以上
貿易実務検定	資格取得	国際知識検定(インドネシア・タイ・ベトナム・韓国・ロシア・台湾検定のいずれかに限る)	3級以上
世界遺産検定	資格取得	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所での言語研修	言語研修の修了

表2（特定の授業科目を単位認定）

項番	認定する資格・検定名	認定基準	認定される授業科目
1	実用英語技能検定（英検）	2級以上	英語演習 A・B・C・D 基礎英語 1・2、英語表現 1・2
	TOEIC Listening&Reading（IPを含む）	480点以上	
	TOEFL ITP	430点以上	
	TOEFL iBT	40点以上	
2	ドイツ語技能検定試験（独検）	5級以上	入門ドイツ語 1・2、基礎ドイツ語 1・2 応用ドイツ語 1・2、発展ドイツ語 1・2
	ドイツ語検定試験（ゲーテ・インスティトゥートの検定試験）	A1以上	
	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ösd（エーエスデー））	A1以上	
3	実用フランス語技能検定試験（仏検）	5級以上	入門フランス語 1・2、基礎フランス語 1・2 応用フランス語 1・2、発展フランス語 1・2
	フランス語能力認定試験（TEF）	A1以上	
4	スペイン語技能検定（西検）	6級以上	入門スペイン語 1・2、基礎スペイン語 1・2 応用スペイン語 1・2、発展スペイン語 1・2
	DELE（外国語としてのスペイン語検定試験）	A1以上	
5	HSK（漢語水平考試）	1級以上	入門中国語 1・2、基礎中国語 1・2
		2級以上	応用中国語 1・2、発展中国語 1・2
	中国語検定試験（中検）	準4級以上	入門中国語 1・2、基礎中国語 1・2 応用中国語 1・2、発展中国語 1・2

2. 申請期間

春学期は6月、秋学期は12月の開講日に申請。申請月以前3年以内に取得したものに限りま

す。表1について、入学前に取得したものは申請を許可しません。

表2について、入学前に取得したものは入学年度に限り受けつけます。

3. 申請期間の特例

最終学年の学生（卒業予定者）に限り、「2. 申請期間」以外に教務課よりCCSにて周知される特定の期間において追加申請を受けつけます。

4. 認定

学部において承認された場合、単位を認定します。

申請時の学年が認定科目の配当年次未満の場合、配当年次以上の学年に進級した時点で単位が認定されます。

5. 成績標語など

単位認定の成績標語は「R」（認定）とします。認定された科目はGPA算出の対象外となります。

6. 補足事項

認定単位数は、履修制限単位数には含みません。

表1について、各種資格の申請は各1回とします。

表2について、1回の申請につき、認定される科目は1つです。

表2項番1について、各種資格（「英検」、「TOEIC」、「TOEFL」の3種類で区別）の申請は各1回とします。

表2項番2～5について、申請は2回までとします。選択言語に限りま

す。表2項番5について、HSK（漢語水平考試）の結果が合否でなくスコア表示の場合は、180点以上の得点とします。

7. 他機関との単位互換

- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所での言語研修

本学は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所と単位交換の協定を締結しており、同研究所が開催する言語研修を修了した場合は、「国際文化能力開発」に振替が可能です。

※過去に開催された言語研修や参加申し込みなど、詳細は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ホームページ (<http://www.aa.tufs.ac.jp/>) で確認できます。

演習科目

演習科目とその履修について

学部の《演習科目》の内、必修科目は、2年次の「国際協力基礎演習1・2」および3・4年次の「演習」になります。「国際協力基礎演習1・2」では広く国際理解・国際交流に関する自主的学習のための基礎を形作ります。「演習」では、担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。「演習」の選択にあたっては、学生のみなさんが希望する教員・専門的分野を選択し、教員の選考を経てゼミの一員となることができます。

また、「スタディツアー」と関連づけられた選択科目である「国際協力実践論」においては、国際場面における実践的学習の方法と実践後のプレゼンテーションなどを学びます。

「演習」の履修

「演習」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。なお、その履修にあたっては、次の2つの条件をクリアしていなければなりません。

- ① 「基礎セミナー」の単位を修得していること
- ② 2年次の終了時点で、40単位以上を修得していること

履修モデル

国際協力学科の履修モデルの考え方は次のとおりです。

国際協力学科の養成する人材像に対応して、「文化協力」「文化支援」に則した履修モデルをそれぞれ提示しますが、これはあくまでモデルですから、学生のみなさんは、それぞれの興味・関心を中心に置きながら、系統的な学修を進めてください。

① 国際理解にもとづく文化協力の担い手として活躍する学生のために（文化協力モデル）

a) 想定される進路

観光・流通・航空業などを中心とした民間企業、とりわけアジア諸国との関係が深い企業活動や、アジアを中心とした国際協力活動に従事する機関や団体など

b) 履修モデルの考え方

国際理解・多文化交流のあり方を自覚的に考察する能力を養い、多様化しつつ、さらに格差を拡大している現実のグローバル社会における文化協力と、文化的共生を核にした国際貢献を実践できる能力を養うことを目標とします。

c) 履修科目の概要

この履修モデルでは、国際社会における共生・協力に関して、国際関係・国際協力の原理と実体を正確に理解し、国際協とりわけ文化協力の場面で実践的な対応が取れる人材の養成をめざします。《学科基幹科目》における必修科目の「国際関係論」「国際協力論」に加えて、「国際文化支援論」「国際社会学」「文化交流論」さらには「ジェンダー論」や「マイノリティ論」などを学ぶこととなります。これにより、単に世界を既成の地理的な

区分で理解するのではなく、それぞれの国や地域あるいは文化圏において多相な人々の現実の生活があることを理解することができます。さらに、《国際文化協力科目》の「国際移民論」「アジア政治経済論」「アジア地域研究1・2」「国際機構論」などを通して国際関係のあり方を深く学ぶとともに、世界の中で日本が置かれた状況、とりわけ開発途上国と日本との関係を多様に学ぶことで、国際協力の真のあり方を学修し、実践力を身につけることができるようになると考えています。

② 国際文化支援の実践者として活躍する学生のために（文化支援モデル）

a) 想定される進路

国内における国際協力事業のみならず、国際的活動をしている NGO・NPO、国際公務員など

b) 履修モデルの考え方

開発途上地域の実情やそこでの支援活動を理解し、現実的な途上国支援のあり方について学び、国内外で積極的な国際支援活動へ参画できる能力を養うことを目標とします。

c) 履修科目の概要

国際支援を中心に据えたこのモデルでは、文化協力モデルと同様に、《学科基幹科目》における必修科目の「国際関係論」「国際協力論」に加えて、「国際文化支援論」「開発社会経済論」「文化交流論」さらには「マイノリティ論」や「ジェンダー論」などを学びます。これにより、単に世界を既存の地理的な区分で理解するのではなく、それぞれの国や地域あるいは文化圏において多相な人々の現実の生活があることを理解できるようになります。さらに、《国際文化支援科目》において「多文化共生社会論」「多文化教育論」「国際人権論」など、特に開発途上国の支援を念頭に据えた科目を中心に履修します。あわせて、「地域発展論」などで、開発途上地域の実情を理解し、支援活動を考察することで、現実的な途上国支援のあり方を学ぶとともに、現実のグローバル社会とりわけ開発途上国に対する現実的な支援展開のための実践力を養うことを目指します。これは対外活動が活発な日本企業で働く上でも、重要で役に立つ能力でもあります。

卒業要件

卒業要件単位の修得

国際文化学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教	26単位以上 (必修10単位を 含む)	
	自己理解と自己開発		
	情報		
	言語とコミュニケーション		
	歴史・文化の理解		
	社会の理解		
	自然・人間・生命の理解		
地域理解			
学部共通科目 ※1		42単位以上	
学科専門科目	学科基幹科目	12単位以上	46単位以上
	国際文化協力科目	22単位以上	
	国際文化支援科目		
	国際文化関連科目		
	留学単位振替科目		
演習科目	12単位以上		
自由選択科目(フリーゾーン) ※2		10単位以上	
合計		124単位以上	

[注記]※1 必修8単位及び選択必修14単位を含む

※2 科目区分を問わず、自由に選択できる。

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
キリスト教				
キリスト教概説1	2		1	AC1101
キリスト教概説2	2		1	AC1102
聖書学		2	2	AC2301
キリスト教倫理		2	2	AC2302
キリスト教史		2	1	AC1301
自己理解と自己開発				
基礎セミナー	2		1	AU1101
発展セミナー		2	1	AU1301
キャリアデザイン1a		2	1	AU1302
キャリアデザイン1b		2	1	AU1303
キャリアデザイン2a		2	2	AU2301
キャリアデザイン2b		2	2	AU2302
ボランティア学		2	1	AU1304
ボランティア演習		2	1	AU1305
インターンシップ1		2	1	AU1306
インターンシップ2		2	1	AU1307
情報				
情報処理基礎	2		1	AI1101
言語とコミュニケーション				
日本語表現	2		1	AV1101
日本語表現上級		2	1	AV1301
歴史・文化の理解				
【教養】日本史		2	1	AW1301
【教養】世界史		2	1	AW1302
【教養】日本文学		2	1	AW1303
【教養】外国文化論		2	1	AW1304
【教養】文化人類学		2	1	AW1305
【教養】陶芸論		2	1	AW1306
【教養】陶芸演習		2	1	AW1307
社会の理解				
【教養】政治学		2	1	AO1301
【教養】国際政治学		2	1	AO1302
【教養】国際関係論		2	1	AO1303
【教養】平和学		2	1	AO1304
【教養】法学		2	1	AO1305
【教養】日本国憲法		2	1	AO1306
【教養】経済学		2	1	AO1307
【教養】経営学		2	1	AO1308
【教養】統計学		2	1	AO1309
【教養】社会学		2	1	AO1310
【教養】教育学		2	1	AO1311
自然・人間・生命の理解				
【教養】哲学		2	1	AN1301
【教養】心理学		2	1	AN1302
【教養】数学		2	1	AN1303
【教養】物理学		2	1	AN1304
【教養】化学		2	1	AN1305
【教養】地学		2	1	AN1306
【教養】生物学		2	1	AN1307
【教養】環境学		2	1	AN1308
【教養】情報処理論		2	2	AN2301
【教養】スポーツ健康科学		2	1	AN1309
【教養】スポーツ初級a		1	1	AN1310
【教養】スポーツ初級b		1	1	AN1311
【教養】スポーツ中級a		1	2	AN2302
【教養】スポーツ中級b		1	2	AN2303
地域の理解				
まちづくり学		2	1	AR1301
まちづくり演習		2	1	AR1302
上級まちづくり演習		2	2	AR2301

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
基礎英語1	1		1	WY1101
基礎英語2	1		1	WY1102
英語表現1	1		1	WY1103
英語表現2	1		1	WY1104
英語演習A (英語で学ぶ日本の文化)		1	1	WY1201
英語演習B (英語で学ぶ世界の文化)		1	1	WY1202
英語演習C (英語で学ぶ異文化理解)		1	1	WY1203
英語演習D (英語で学ぶ時事問題)		1	1	WY1204
英語演習E (英語で学ぶSDGs)		1	2	WY2201
英語演習F (英語で学ぶ環境・エネルギー問題)		1	2	WY2202
英語演習G (英語で学ぶ健康と食糧)		1	2	WY2203
英語演習H (英語で学ぶ国際連合)		1	2	WY2204
英語演習I (英語で学ぶ差別問題)		1	2	WY2205
英語演習J (英語で学ぶ平和)		1	2	WY2206
英語演習K (英語で学ぶ世界遺産)		1	2	WY2207
英語演習L (英語で学ぶ教育問題)		1	2	WY2208
入門ドイツ語1		1	1	WY1205
入門ドイツ語2		1	1	WY1206
基礎ドイツ語1		1	1	WY1207
基礎ドイツ語2		1	1	WY1208
発展ドイツ語1		1	2	WY2209
発展ドイツ語2		1	2	WY2210
応用ドイツ語1		1	2	WY2211
応用ドイツ語2		1	2	WY2212
ドイツ語で学ぶドイツ文化		2	3	WY3301
ドイツ語で学ぶドイツ事情		2	3	WY3302
入門フランス語1		1	1	WY1209
入門フランス語2		1	1	WY1210
基礎フランス語1		1	1	WY1211
基礎フランス語2		1	1	WY1212
発展フランス語1		1	2	WY2213
発展フランス語2		1	2	WY2214
応用フランス語1		1	2	WY2215
応用フランス語2		1	2	WY2216
フランス語で学ぶフランス文化		2	3	WY3303
フランス語で学ぶフランス事情		2	3	WY3304
入門スペイン語1		1	1	WY1213
入門スペイン語2		1	1	WY1214
基礎スペイン語1		1	1	WY1215
基礎スペイン語2		1	1	WY1216
発展スペイン語1		1	2	WY2217
発展スペイン語2		1	2	WY2218
応用スペイン語1		1	2	WY2219
応用スペイン語2		1	2	WY2220
スペイン語で学ぶスペイン文化		2	3	WY3305
スペイン語で学ぶスペイン事情		2	3	WY3306
入門中国語1		1	1	WY1217
入門中国語2		1	1	WY1218
基礎中国語1		1	1	WY1219
基礎中国語2		1	1	WY1220
発展中国語1		1	2	WY2221
発展中国語2		1	2	WY2222
応用中国語1		1	2	WY2223
応用中国語2		1	2	WY2224
コミュニケーション中国語1		2	1	WY1301
コミュニケーション中国語2		2	1	WY1302
映画で見る中国語		2	2	WY2301
生活中国語		2	2	WY2302
日常中国語		2	2	WY2303
中国語の検定にチャレンジ		2	3	WY3307
おもてなし中国語		2	3	WY3308
実践中国語		2	3	WY3309

学部共通科目

	授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
学部 共通科目	韓国語1		2	1	WY1303
	韓国語2		2	1	WY1304
	フィリピン語と日常世界1		2	1	WY1305
	フィリピン語と日常世界2		2	2	WY2304
	基礎インドネシア語		2	1	WY1306
	検定インドネシア語		2	2	WY2305
	ことばと音声		2	2	WY2306
	コンピュータ技法1		2	2	WY2307
	コンピュータ技法2		2	2	WY2308
	TOEIC英語基礎1		1	1	WY1307
	TOEIC英語基礎2		1	1	WY1308
	TOEIC英語実践1		1	2	WY2309
	TOEIC英語実践2		1	2	WY2310
	日本語教授法1		2	2	WY2311
	日本語教授法2		2	2	WY2312
	国際文化論	2		1	WY1105
	キリスト教文化論1		2	2	WY2313
	キリスト教文化論2		2	2	WY2314
	宗教学人類学		2	1	WY1309
	グローバル社会文化論		2	1	WY1310
	日本対外関係史		2	1	WY1311
	日本文化論	2		1	WY1106
	比較宗教論		2	2	WY2315
宗教と平和		2	2	WY2316	
国際環境論		2	2	WY2317	
学部 専門科目	学科基幹科目				
	国際関係論	2		2	WY2101
	国際協力論	2		2	WY2102
	国際文化支援論		2	2	WY2318
	開発社会経済論		2	2	WY2319
	文化交流論		2	2	WY2320
	国際社会学		2	2	WY2321
	マイノリティ論		2	2	WY2322
	ジェンダー論		2	2	WY2323
	国際文化協力科目				
	国際移民論		2	2	WY2324
	文化変容論		2	2	WY2325
	日欧交流史		2	3	WY3310
	日本アジア交流史		2	2	WY2326
	日中関係論		2	2	WY2327
	アジア政治経済論		2	2	WY2328
	日本社会論		2	2	WY2329
	環太平洋地域研究		2	2	WY2330
	アジア地域研究1		2	2	WY2331
	アジア地域研究2		2	2	WY2332
	国際機構論		2	2	WY2333
	国際平和学		2	2	WY2334
	国際文化支援科目				
	多文化共生社会論		2	2	WY2335
	異文化コミュニケーション論		2	2	WY2336
	世界遺産論		2	2	WY2337
	地域発展論		2	2	WY2338
	多文化教育論		2	2	WY2339
	国際福祉論		2	2	WY2340
	NPO・NGO論		2	2	WY2341
	国際人権論		2	2	WY2342

	授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
		必修	選択			
学部 専門科目	国際文化関連科目					
	比較文化・社会論1	2		2	WY2103	
	比較文化・社会論2		2	2	WY2343	
	現代アジア文化社会論		2	2	WY2344	
	欧米文化総論		2	2	WY2345	
	イスラム世界論		2	2	WY2346	
	英米文学概論		2	2	WY2347	
	英米文学史		2	2	WY2348	
	日本の国宝・文化財		2	2	WY2349	
	国際文化能力開発1		2	1	WY1312	
	国際文化能力開発2		2	1	WY1313	
	国際文化能力開発3		2	1	WY1314	
	留学単位振替科目					
	海外事情1			2	1	WY1315
	海外事情2			2	1	WY1316
海外事情3			2	1	WY1317	
海外事情4			2	1	WY1318	
学部 専門科目	演習科目					
	国際協力実践論		2	1	WY1319	
	国際協力基礎演習1	2		2	WY2104	
	国際協力基礎演習2	2		2	WY2105	
	演習	8		3・4	WY3101-WY4101	

選択必修科目

①ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・基礎・発展・応用の1と2を修得しなければなりません。

入門ドイツ語1・2	入門スペイン語1・2
基礎ドイツ語1・2	基礎スペイン語1・2
発展ドイツ語1・2	発展スペイン語1・2
応用ドイツ語1・2	応用スペイン語1・2
入門フランス語1・2	入門中国語1・2
基礎フランス語1・2	基礎中国語1・2
発展フランス語1・2	発展中国語1・2
応用フランス語1・2	応用中国語1・2

②英語演習AからLの中から6単位を修得しなければなりません。

英語演習A (英語で学ぶ日本の文化)
英語演習B (英語で学ぶ世界の文化)
英語演習C (英語で学ぶ異文化理解)
英語演習D (英語で学ぶ時事問題)
英語演習E (英語で学ぶSDGs)
英語演習F (英語で学ぶ環境・エネルギー問題)
英語演習G (英語で学ぶ健康と食糧)
英語演習H (英語で学ぶ国際連合)
英語演習I (英語で学ぶ差別問題)
英語演習J (英語で学ぶ平和)
英語演習K (英語で学ぶ世界遺産)
英語演習L (英語で学ぶ教育問題)